

実り多き2学期に



校長

おかげさまで大きな事故もなく夏休みを終えて、2学期を迎えられました。今学期は新たに53名の転入生を

迎えて369名でのスタートとなります。夏休みの間、静まりかえっていた学校ですが、子どもたちの元気に活動する姿が戻ってきたことで、校舎も校庭も生き生きと輝いた表情を見せています。

さて、2学期は1年で1番長い学期となります。日々の授業については、新学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえ、「自ら学び 深く考え 共に高め合う」児童生徒の育成に努めてまいります。

また、文化祭、写生大会、現地校交流など、多くの行事では、子どもたちの成長のために意義のある学習や体験活動ができるように、今学期も取組を進めていきたいと考えております。

さらに、1学期末から各学年・学部で、準備してまいりました文化祭への取組が本格的に始まりました。今年度のスローガンは、「全信全励～我らがつなぐ、この瞬間」に決定しました。小学部は学年ごとの、中学部は学部合同の劇にそれぞれ取り組んでいます。文化祭への皆様のご来校をお待ちしております。

子どもたちにとって実り多き2学期になるよう、教職員一同、保護者の皆様方との協力・連携をはかり、子どもたち一人ひとりにかかわり・寄り添いながら指導・支援に努めてまいります。

時間の重みを感じて

「ジャーネーの法則」をご存じでしょうか。「ジャーネーの法則」とは、「年をとるほど時間が早くたつ」というもので、10歳の子どもと50歳の大人とでは、同じ時間をすごしていても50歳の方が時間がたつのを早く感じるというものです。「生涯のある時期における時間の心理的長さは年齢の逆数に比例する(年齢に反比例する)」という法則です。

この「ジャーネーの法則」によると、人はなんと20歳で人生の半分を終えているということになるそうです。20歳から80歳までの60年間は、その人にとって、生まれた時から20歳になるまでの20年間分と同じくらいの長さのように感じられるというのです。

今年、私にとって、56回目の夏が終わりました。たとえば中学生にとっては、13回目、14回目、15回目の夏だったことでしょう。それぞれの夏にそれぞれの思い出があるように、今年の夏も記憶に残る夏になったと思います。

しかし、私の場合、最近の夏を思い返そうとしても、昨年、一昨年の夏は何をしていたか、どこに行ったかなど、記憶がすぐによみがえらず、曖昧になってしまっている部分があります。私はすでに56回の「夏」を経験しているため、それぞれの夏が56回の内の1回である、つまり1つ1つの夏の思い出が年を重ねるごとにインパクトの薄いものになっていってしまっているからです。夏に限らず今年度の1年間は、私にとっては56分の1になってしまいますが、中学生にとっては、13分の1、14分の1、15分の1がこれまでの時間から割り出された今年度であるわけです。56分の1と13分の1を比べればどちらが長い時間かは一目瞭然です。年を重ねていくに従って、1年間が短く感じられるような気がするのはこのためではないでしょうか。自分自身を振り返ってみても、子どもの頃の1年間は、今よりもずっと長かったように感じます。子どもの場合は、その分1年間の時の流れが大きく自分に影響しているといえるでしょう。1年間が自分にとって10数分の1である子どもの時期と50数分の1になる大人になってからは、自分自身を変えていく意味でどちらが大きく影響するかは明白です。

人生は、長く果てしないものという感覚が子どもの時にはあると思いますが、1年間の比率が自分の年齢から考えて段々小さくなっていくことを思うと、今現在の1年間をどう過ごすかは、大人より子どもたちの方が大きな意味をもつものだと改めて思えてきます。このことから子どもたちが自分を良い方向へと変えていこうと時間を活用することには、私の4倍も5倍も効果があるということの意味するということです。

今年度も夏が終わり、秋、冬、春と季節がめぐっていきます。今年度の残り3分の2の時間も「頑張る自分」を継続していくことで、子どもたちは大きく自分を成長させていくことでしょう。

1日1日が、子どもたちにとっては、大人より何倍もの重みをもつ時間であることを常に心に留め、9月以降もご家庭と協力しながら子どもたちの頑張りを後押ししていきたいと思えます。

どうぞよろしくお願ひいたします。

I♡PGL

6月23日（金）から25日（日）までの3日間、小学部5年生は、リディントンにあるPGLへ自然体験教室に行ってきました。仲間とともに8つのアクティビティーに挑戦しました。力を合わせて達成したことで、友だちとの絆をより深めることができました。

アクティビティーの中で1番人気だったのは、「ジップワイヤー」です。ジップワイヤーでは、安全装備をつけ、高さ約



15メートルのところからロープ1本につかまり、約30メートルの傾斜を滑ります。子どもたちは「今までにこんな経験したことがないので、とても気持ち良かった。」「鳥になった気分。」とっていました。

多くの場面で、子どもたちが互いに励まし合い、助け合い、喜び合う姿を見ることができました。どのアクティビティーもたった1人での参加なら、諦めたり達成できなかつたりしたものもあったかもしれませんが、しかし、友だちからの応援が勇気になり、不安が安心に変わったことで、いろんなアクティビティーを達成できたのだと思います。これからも互いに協力して何事にも取り組み、たくさん成長してくれることを願っています。

楽しかった公園探検

小学部1年生は、7月7日（金）にイーリンググモンプークに校外学習に出かけました。今回は、「友だちと協力する」「ヘルプの方の言うことを聞く」「けがをしない」という目標をもって取り組みました。

公園では、植物探し、しっぽとり相撲、紙飛行機とばしの3つの活動を行いました。植物探しでは、公園の中にある植物を、写真を見ながらグループで探しました。

写真と見比べ「この部分が同じだからこれかな。」「ちょっと違うんじゃない。」と協力して取り組むことが



できました。次のしっぽとり相撲は、手をつないだ状態で、相手のしっぽを取ります。「はっけよい、のこった」のかけ声を合図に、子どもたちは必死になって相手のしっぽを取っていました。友達からの声援もあり、大いに盛り上がりました。最後は、子どもたちが一番夢中になった紙飛行機とばしを行いました。風に乗せて遠くにとばすことができた時の子どもたちの笑顔が印象的でした。

今回が2回目となる校外学習でしたが、目標を意識して活動したり、ルールを守ったりすることができていて、この1学期間での子どもたちの成長を感じました。学年目標の「みんなでいっしょにさいごまで」を合い言葉にこれからもみんなで協力し合えるように指導・支援していきたいと思えます。

限界突破

～諦めず、みんなで壁を乗り越えろ～

7月22日（土）に第41回ロンドン日本人学校運動会を開催いたしました。当日は、天候が心配されたため、プログラムを変更して行いました。しかし、そんな心配をよそに、児童生徒たちは自分たちのチームの勝利を目ざし、精一杯取り組みました。なかでも、午前中のプログラム1番に行われた応援合戦は、やる気に満ち溢れた、たいへん見応えのあるものでした。紅白ともに小学部と



中学部が一丸となり、切磋琢磨しながら頑張ってきた様子が非常によく表れ、その姿は、まさに「限界突破」を

体現したものでした。

各学年・学部の「個人種目」や「団体種目」でも、自分の力を存分に発揮し、練習以上の成果をあげることができていたと思います。他学年の競技を見ながら、声が枯れるほど一生懸命に大きな声を出して応援していた姿も立派でした。

降雨のため残念ながら、全種目を行うことはできませんでしたが、両チームが団結・協力しながら、全員が心をついにできた素晴らしい運動会だったと思います。

当日は、急な変更等ありましたが、保護者の皆様方の迅速なご対応、また温かいご声援とご協力、誠にありがとうございました。